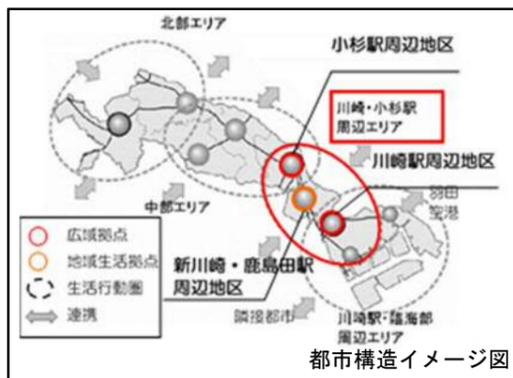
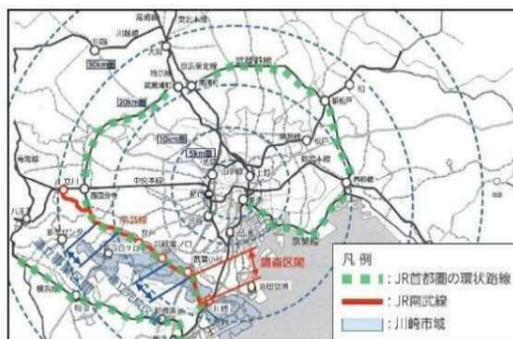


1 南武線沿線まちづくりの検討

(1) 背景

- JR南武線は、本市の拠点形成を形成する重要な交通基盤となっており、本市のまちづくりはJR南武線を大きな軸としてこれまで進展してきました。
- 沿線の市街化の進展に伴い、踏切を起因とした交通渋滞、バスの定時性・速達性の低下などの課題が顕在化していることから、現在、尻手駅から武蔵小杉駅間の約5.5km(川崎市域約4.5km)において、連続立体交差化に向けた取組が進められています。
- 現在、連続立体交差化に取組んでいる区間は、本市の総合計画における「川崎・小杉駅周辺エリア」に位置付けられ、沿線の土地利用転換を戦略的・機動的に誘導し、優れた産業機能と生活環境の調和を図りながら、民間活力を活かした駅を中心とする魅力あるまちづくりに取組むことが示されています。
- これまで、川崎駅周辺地区や小杉駅周辺地区、新川崎・鹿島田駅周辺地区においてまちづくりが進められてきましたが、今後は、広域拠点や地域生活拠点以外のその他の身近な駅周辺においても地域特性を活かしたまちづくりを進めることで、駅周辺のまちの価値や魅力を向上させ、さらに、その効果を南武線沿線地域に波及させることで、まちの持続的な発展に繋げることが重要となります。



(2) まちづくりの検討経過

- JR南武線連続立体交差事業及びまちづくりにあたり、計画段階から沿線地域の多様な関係者間でコミュニケーションをとり、地域課題や目的等を共有したうえで、取組を推進していくために、平成28年6月に「JR南武線連続立体交差事業に関する地域勉強会」を設置しました。
- 地域勉強会は、地域全体の市民自治の向上に資する以下の団体の代表者を委員とし、これまで計10回の勉強会及び現地視察会を開催してきました。

	幸 区	中原区
町内会	幸区町内会連合会 (御幸・日吉・南河原地区)	中原区町内会連絡協議会 (丸子・玉川・小杉地区)
商店街	幸商店街・日吉商店街連合会	中原区商店街連合会
文 化	幸区文化協会	中原区文化協会
福 祉	幸区社会福祉協議会	中原区社会福祉協議会
安 全	幸区交通安全対策協議会	中原区交通安全対策協議会
教 育	幸区PTA協議会	中原区PTA協議会
工 業	新川崎地区ネットワーク協議会	川崎中原工場協会
その他	南武線沿線まちづくり連絡会	

(3) 南武線沿線まちづくりの検討区域

- 連続立体交差事業が予定されている区間における鹿島田駅・平間駅・向河原駅を中心に、以下に示す範囲を検討区域とします。



2 南武線沿線地域の現状と課題

- **川崎市の持続的な発展に繋げるまちづくりの推進**
「人」の東京や横浜などの市外への流出傾向が強く、本市の活力低下に繋がる可能性があることから、本市の持続的な発展に向けて、南武線各駅周辺の魅力あるまちづくりに取組む必要があります。
- **駅を中心とした適切な都市機能の集積(土地利用)**
商業施設や医療・福祉施設、子育て支援施設などの多様な都市機能を、適切な規模、適切な位置に配置し、駅を中心に誰もが暮らしやすいまちづくりに取組む必要があります。
- **土地利用転換地における適切な土地利用の誘導(土地利用)**
沿線地域にある工場用地などの一団の土地の土地利用転換の機会を捉え、周辺環境との調和に配慮しながら、地域課題の解決や地域の魅力を高める土地利用の誘導に取組む必要があります。
- **産業機能の集積による産業拠点の形成(土地利用)**
新川崎地区をはじめ、沿線には業務施設や優れた研究開発機関が多く立地していることから、その沿線の地域特性を活かした拠点形成に引き続き取組む必要があります。
- **多様な人々が交流する場、機会の創出による地域コミュニティの強化(土地利用)**
既存の地域コミュニティを維持しつつ、新たなコミュニティの形成により、全ての人々が安心して暮らしていける仕組みづくりに取組む必要があります。
- **連続立体交差事業をはじめとする都市基盤の整備(交通)**
踏切渋滞の解消による駅周辺交通の円滑化や緊急輸送路の確保、バリアフリーに対応した歩行者通行環境の整備などに向けて、連続立体交差事業や関連する道路整備に取組む必要があります。
- **交通ネットワークの強化による交通環境の整備(交通)**
駅を中心としたまちの実現を目指し、連続立体交差事業や関連する道路整備などを契機として、駅へのアクセス性の向上などの交通環境の整備に取組む必要があります。
- **豊富な地域資源を活かした地域の魅力向上(環境)**
多摩川や二ヶ領用水、夢見ヶ崎公園などの自然的資源や歴史的資源などの豊富な地域資源を活用し、地域の魅力を向上させる取組を誘導する必要があります。
- **持続可能な社会構築に向けた健康づくりに配慮した都市機能の誘導(環境)**
多様化するライフスタイルの変化に対応し、子供や高齢者、障がいを持つ人など、様々な人がスポーツや健康づくりに取組むことができる環境づくりに取組む必要があります。
- **防災性の向上による安心で快適な居住環境の確保(防災)**
災害時の建物倒壊や延焼拡大、避難路・避難場所の確保に向けて緊急車両の通行や円滑な防災・救護活動に対応する道路や公園・オープンスペースなどの整備に取組む必要があります。

3 南武線沿線まちづくりの方向性

(1) まちづくりの基本目標

JR南武線連続立体交差事業を見据えた、誰もが暮らしやすく住みつけたい、個性と魅力あふれるまちづくりの推進

- 地域商業や産業などの活性化により、各駅周辺地区の拠点性を向上させ、さらに、それぞれの駅周辺地区や2つの広域拠点との連携を図ることで、市内における人やモノの効果的な循環、経済活動の更なる活性化を促し、本市の持続的な発展を目指します。
- JR南武線連続立体交差事業及び事業にあわせた都市計画道路の整備などによる周辺環境の変化や、今後迎える人口減少・超高齢化社会の到来などの社会状況の変化を見据え、バランスの取れた都市機能の集積や生活環境の向上に向けた取組を推進します。
- 市民、地元企業及び行政などの多様な主体が協働・連携し、地域の個性と魅力を活かしたまちづくりに取組むことで、誰もが暮らしやすく、住みつけたいと思えるまちの実現を目指します。

(2) 目指すべき都市像

■ 駅を「核」とした生活拠点の形成

広域拠点や各駅周辺地区との連携・機能分担を図りながら、駅を中心にそれぞれの地域の個性を活かした生活利便施設の集積と南武線連続立体交差化などの公共事業の推進による基盤整備を進め、地域の生活や経済を支える個性豊かな身近な生活拠点の形成を目指します。

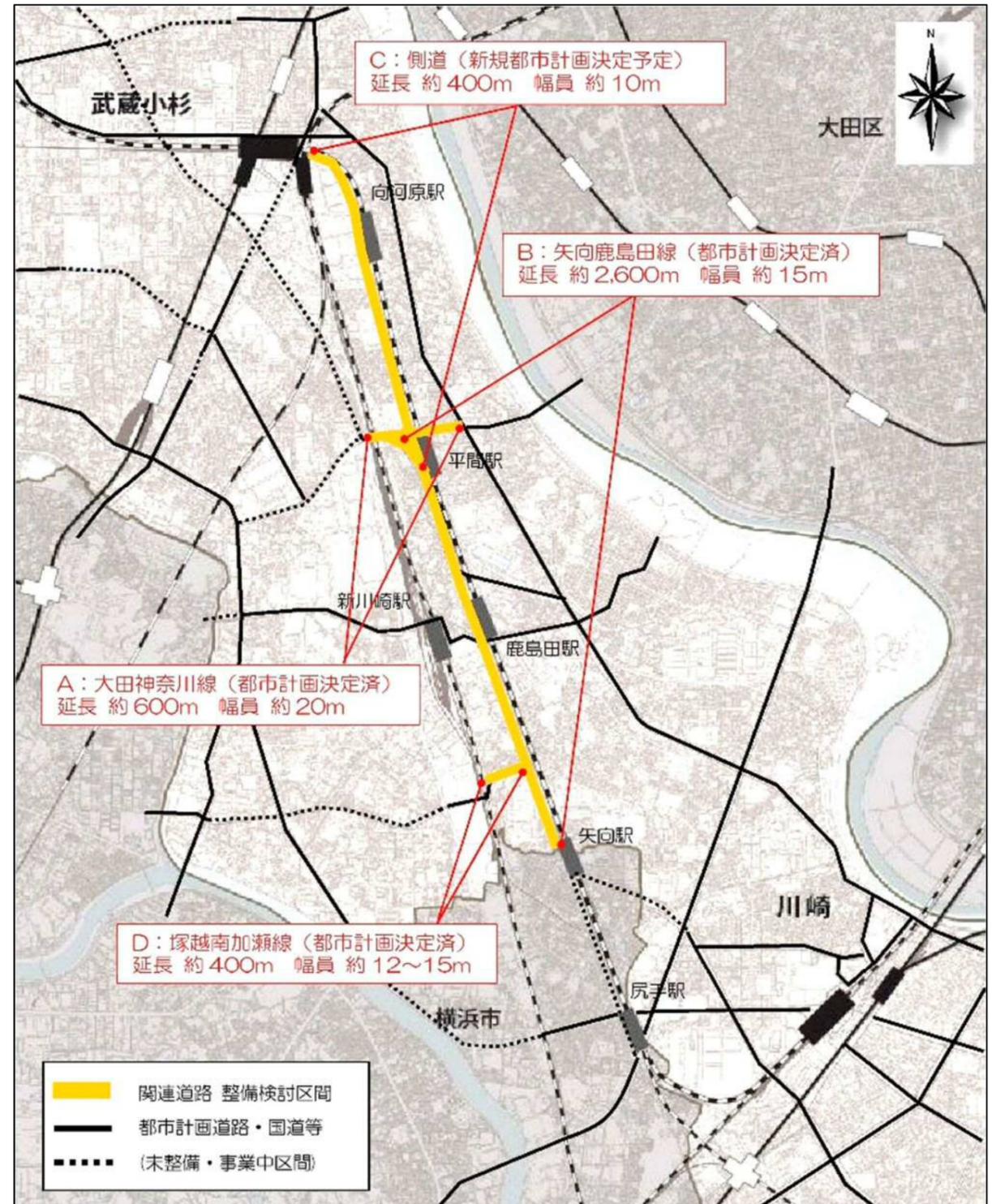
■ 地域間を有機的に結び連携を促す「軸」の形成

JR南武線を主軸とする「都市軸」と、各駅周辺地域間及び周辺都市との連携を促すための「地域連携・交流軸」の形成により、「核」の形成によるまちづくりの効果を沿線地域全体に波及させ、魅力の向上や価値の醸成などによる南武線沿線地域の活性化を目指します。

目指すべき都市像



連続立体交差事業の関連道路整備基本方針



(3) まちづくりの基本方針

南武線沿線におけるまちづくりの基本目標、目指すべき都市像の実現に向け、まちづくりの基本方針を次のように定めます。

駅を中心とした暮らしやすいまちづくり【土地利用】

各拠点駅との連携・分担を図りながら、地域特性を活かした適切な都市機能の集積や地域資源の活用、良好なコミュニティ形成、快適な住環境の整備などの推進により、誰もが暮らしやすいまちづくりを目指します。

- まちの拠点性を高める適切な土地利用の誘導
- 地域コミュニティを支える都市機能の誘導と取組の推進
- 既存商店街や地域資源の活用による賑わい形成に向けた取組の推進
- 住環境の向上に向けた取組の推進

公共交通の利便性を高めるまちづくり【都市交通】

JR南武線連続立体交差事業による踏切の解消や関連道路の整備、地域の状況に応じた交通結節機能の強化により、交通環境の改善を図るとともに、バスなどの公共交通の充実と利用者の利便性を高めるまちづくりを目指します。

- 連続立体交差事業の推進にあわせた交通環境の改善
- 地域の状況に応じた交通結節機能の強化と公共交通の充実
- 交通ネットワークの強化による周辺市街地等との連携・交流による新たな価値の創出

環境と健康に配慮した潤いあるまちづくり【都市環境】

沿線地域が持つ地域資源を活かして、訪れる誰もが楽しめる街並みの形成や、多様な世代が憩える緑の空間の誘導など、持続可能な社会構築に向けた環境に配慮した循環型のまちづくりを目指します。

- 憩いと潤いのある街並みの形成
- 持続可能な社会構築に向けた低炭素化・循環型のまちづくりの推進
- 環境に配慮した交通環境の形成

災害に強いまちづくり【都市防災】

連続立体交差事業に合わせた道路整備や、民間の大規模土地利用転換に合わせたオープンスペースの整備などにより防災機能の充実と、地域住民との協働による防災体制の強化などを促す仕組みづくりにより、災害に強い安心・安全なまちづくりを目指します。

- 災害に強い都市構造の形成
- 大規模な土地利用転換地や高架下の有効活用による防災機能の充実
- 地震による建物倒壊・延焼火災の被害を低減させる取組の推進
- 地域コミュニティにおける防災体制の充実

(4) 各駅周辺地区のまちづくり

JR南武線連続立体交差事業等の事業進捗、駅周辺の大規模土地利用転換のタイミング、地域住民等のまちづくりに対する機運などを捉えて、各駅周辺地区における地域特性やまちの成り立ちなどを踏まえた適切なまちづくりを推進します。

(5) 魅力あるまちの実現に向けた取組の推進

■ 大規模土地利用転換地における適切な土地利用の誘導

沿線において位置的・機能的に重要な役割を果たす可能性が高い一団の土地の土地利用転換のタイミングを捉え、都市計画手法を活用した適切な都市機能の誘導、駅前広場や道路・公園等の都市基盤の整備など、駅前にふさわしい魅力あるまちの実現に向けた土地利用誘導の検討を行います。



■ 連続立体交差事業による高架下利活用の検討

JR南武線連続立体交差事業により、踏切による交通渋滞の解消や線路で分断された市街地の一体化による回遊性の向上などの都市活動の活性化が期待できることから、高架下の利活用について、今後、検討を行っていきます。



公園・ポケットパークの整備 店舗などの集積

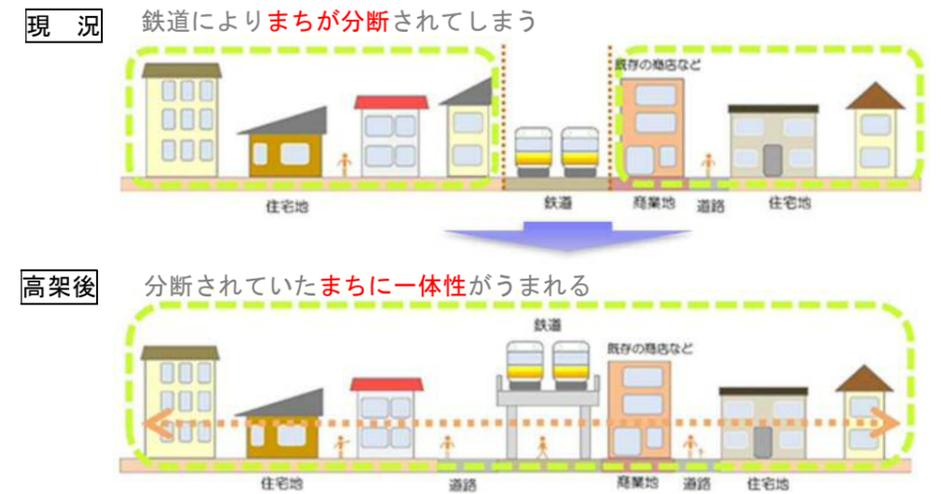
■ 地域コミュニティを醸成する取り組みの検討

○公共空間の利活用による新たなコミュニティの創出

駅周辺の公共空間を有効に活用することにより、駅や駅周辺を訪れる多様な人々が、有意義な時間を過ごすことができるまちの「居場所」をつくり、駅周辺に賑わいと、地域の新たな魅力の創出を目指します。

○まちづくりの担い手の育成

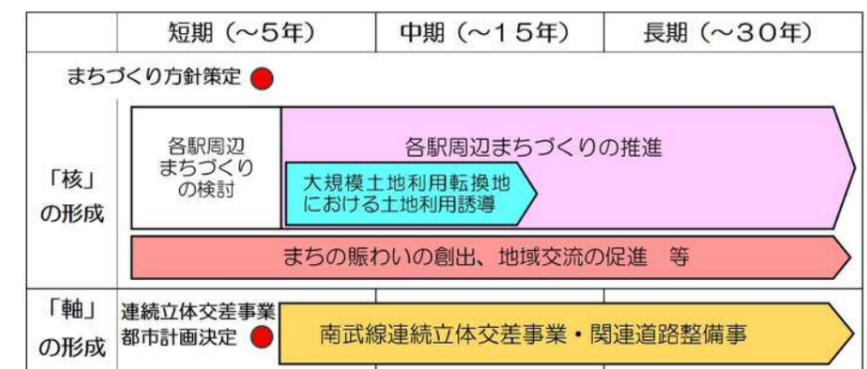
地域の様々な主体が連携しながら、それぞれのまちづくり活動による効果をより広域に波及させるために、潜在的なまちづくりの担い手の発掘、育成を促します。



公共空間利活用の社会実験 (鹿島田駅前)

4 今後に向けて

各駅周辺のまちづくりの検討の深度化、まちの賑わい創出、地域交流の促進に取組み、JR南武線連続立体交差事業やこれに併せて進められる都市計画道路等の基盤整備の事業進捗に合わせて、まちづくりを効率的・効果的に推進し、誰もが暮らしやすく住み続けたい個性と魅力あふれるまちの実現を目指します。



誰もが暮らしやすく住み続けたい
個性と魅力あふれるまちの実現